

平成 29 年度 第 1 回木曾悠久の森管理委員会の概要（公表）

開催日及び場所	平成 29 年 6 月 14 日（水）13：30～15：30 中津川文化会館「多目的研修室」
出席委員	青山節児（中津川市長）、飯尾歩（中日新聞社論説委員）、池田聡寿（池田木材（株）代表取締役社長）、大屋誠（上松町町長）、岡野哲郎（信州大学農学部教授）、下嶋聖（東京農業大学准教授）、野村弘（木曾官材市売協同組合理事長）、正木隆（森林総合研究所）、増田政昭（信濃毎日新聞編集委員）、山本進一（名古屋大学名誉教授）、山本博一（東京大学大学院教授）、横山隆一（日本自然保護協会参事） 委員会委員 16 名中 12 名出席（五十音別・敬称略）
議 題	1 特殊用材の需要・要望への対応について（案） 2 各専門部会の検討状況について 3 平成 29 年度における各種事業予定 4 その他
概 要	○ 委員からの主な意見 1 特殊用材の需要・要望への対応案 ・「木曾悠久の森」からの特殊用材の供給は、伊勢神宮への供給のみを前提としたものか。 ・今回定める手続きにおいては、他の国民的伝統行事を排除していない。 ・これまでの特殊用材の供給状況はどうか。 ・伊勢神宮以外にも、錦帯橋や明治神宮の神楽殿などにも供給している。 ・特殊用材を供給し続けると、要望される大きさ・長さを満たす木曾ヒノキがなくなるのではないか。このため、特殊用材向けの毎木調査を事前しておくなど、持続性を判断する資料づくりも必要でないか。 →伊勢神宮は、宮域林で遷宮用材のための人工林ヒノキを育成しており、天然木に限定していないと聞いている。したがって、国有林からの供給では人工林ヒノキも使って行く方向。国有林のヒノキ人工林は齢級毎の資源量が揃っており持続性がある。 ・特殊用材の供給手続きは、案のとおり決定する。 2 各専門部会の検討状況、平成 29 年度の各種事業予定 ・「木曾悠久の森」のほとんどが保安林であるが、人工林の天然林化に当たって、保安林の指定施業要件により必要な施業ができないのではないか。 ・カラマツ人工林について、天然林化をどのように進めるのか。 ・生育場所ごとの立地条件等にあった施業が必要である。 ・「目標林型」というと生産目標という面が強くなるので、「最終林型」という方が適切ではないか。 ・カラマツの天然更新のモデル林のようなものはあるのか。 →東信地域にカラマツの天然更新林分がある。 ・一般に、カラマツの天然更新は難しい。 ・昨年の森林総合利用・地域振興専門部会において、地域自治体や団体から「木曾悠久の森」に対する意見等を聴取したが、引き続き、このような機会を設けた方がよい。 →森林総合利用・地域振興専門部会座長や専門部会委員に相談し、検討したい。